

2017年、関西地域では、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の認知度が低い状況を受け、JICA関西が関西エリアの産官学民のアクターに協力を呼びかけ、「関西SDGsプラットフォーム (KSP)」が設立されました。KSPのセミナー等を通して関西地域でのSDGsの認知が進み、現在では、9つの分科会の活動によりSDGs達成に向けた具体的なアクションが展開されています。

## 取り組み年表

2015

2020

- 地域独自の取り組み
- JICAとの連携事業

### 地域の課題

- SDGsの認知度が低い
- SDGsに関する情報が少ない

### 地域のリソース

- 関西地域の民間企業、市民団体、研究機関、自治体等が持つ技術や知見

● 国連サミットで「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」が採択される。

● 2017「関西SDGsプラットフォーム (KSP)」の設立

→ 2017- KSPでSDGsに関するイベントの開催・情報発信

● 2017 関西SDGs貢献ビジネスネットワーク分科会の設立 (設立主体: 近畿経済産業局)

● 2019 SDGs環境ビジネス分科会 (設立主体: 一般社団法人エコビジネス推進協会)

● 2019 共育分科会 (設立主体: 特定非営利活動法人 阪神・智頭NPOセンター)

● 2019 食品ロス削減分科会 (設立主体: 特定非営利活動法人 Deep People)

● 2020 教育分科会 SDGs ナレッジラボ (設立主体: 特定非営利活動法人 Deep People)

● 2020 バリアフリーマップ分科会 (設立主体: 一般財団法人SDGs普及協会)

● 2020 大学分科会 (設立主体: 大阪大学)

● 2022 兵庫部会 ひょうごSDGs Hub (設立主体: 兵庫県企画部SDGs推進課)

● 2023 ローカルSDGs・脱炭素分科会 (設立主体: 環境省近畿地方環境事務所)

## KSPを通じたSDGsの認知促進 SDGs達成に向けてKSPで繋がる新たな連携

### KSPの設立とSDGsの認知促進

KSPは地域でSDGsに関するプラットフォームを立ち上げた全国初の事例で、**JICA関西**が主導して関西地域の主要な組織による協力体制ができあがりました。KSP設立当初の活動は、関西地域におけるSDGsの認知度が低い状況だったので、セミナーや講演会などの普及啓発活動が中心でした。設立当初の会員数は約140団体でしたが、関西地域でのKSPの認知が進み、2024年5月時点の会員数は2455団体まで増加しました。

### 分科会活動によるSDGs実装に向けた具体的な活動の展開

KSPの活動を通じて、関西地域でのSDGsの認知が進んだ結果、より具体的な活動を展開したいと考えたKSP会員が分科会を設立し、近年は、9つの分科会による活動が活発化しています。SDGsの実装に向けて、分科会活動において個々の企業の関心に沿ったより具体的な活動が展開されています。

例えば、SDGs環境ビジネス推進分科会では、環境に関連する4つの部会での勉強会を通じて、設立主体である一般社団法人エコビジネス推進協会が分科会の会員企業同士をマッチングし、分科会内で環境技術にかかる実現可能性調査を実施しています。

また、食品ロス削減分科会では、「FOOD STYLE 関西」という食品関連の企業が集まるイベントと連携し、食品ロスにかかる普及啓発活動を実施しています。展示会で余った食品を子ども食堂で活用する「フードドライブ」の取り組みに参加する企業が増えており、「フードドライブ」の認知が広がっています。

教育分科会 SDGs ナレッジラボでは、「関西SDGs コースアクション」を公益社団法人日本国際博覧会協会と共催で実施し、小学生～大学生を対象としたSDGsの課題解決のアイデアコンペを開催しています。受賞作品の中には、設立主体であるNPO法人Deep Peopleのサポートを得て、実際に企業と組んで商品化した例もあり、SDGs達成に向けたアイデアの実現に取り組んでいます。

大学分科会は、大学と産官学民の幅広い関係機関が協働してSDGsに携わる場として設立され、2025年に開催される「大阪・関西万博」に向けて、SDGsのその先を見据え「いのち会議」での議論を進めています。

また、共育分科会の「へちまプロジェクト」をひょうごSDGs Hub分科会が協働して兵庫県内にも展開する等、分科会間の連携活動にも発展しています。

KSP分科会活動が活発に展開され、SDGs達成に向けたアクションが次々と花開いています。

JICA国内拠点との協働	JICAからの出向者	国際協力推進員	多文化共生支援	協力隊の関与
自治体連携協力隊派遣	途上国研修員の受入	協力隊派遣前訓練	草の根技術協力事業	民間連携事業
技プロとの連携	開発教育	その他		

## 地域へのインパクト

### 新たな連携の創出

KSPというプラットフォームがあることで、分科会同士や会員同士の交流の場となっています。交流を通じてアクター同士が繋がることで新たな活動の展開のきっかけとなっています。

### 企業の課題解決力

KSPにおける活動の展開は、関西地域でのSDGsの認知促進に貢献しました。KSP会員にとっては、KSPで他のアクターと繋がることで、SDGs実装に向けた具体例を知る事ができたり、課題解決のヒントが得られたりする場となっています。

### 魅力増

SDGsに取り組んでいる事が評価され、採用活動や商業取引においても有利となるため、KSP会員であることが、会員企業や組織の信頼獲得に繋がっています。

### 産業の活性化

新たな連携が創出されることで、SDGsに関連する新しい活動が展開に繋がっています。分科会内でビジネスアイデアにかかる実現可能性調査を実施したり、アイデアコンペの内容が商品化されたりするなど、産業の活性化にも繋がっています。

### 他地域への波及

KSP設立後と活動の展開を契機に、全国でSDGsに関する情報共有や連携を図るプラットフォームを設立する例が見られるようになりました。

## 促進要因

**運営体制：**KSP運営委員会やKSP事務局は、関西地域の各界で信用力のある団体が母体組織であり、信頼感、安心感、ブランド、ネームバリューがあり、新規会員の獲得や、活動が展開しやすくなっています。

**時代の要請に応じた活動の変化：**活動初期のSDGs普及啓発活動から、SDGsの認知が進んだ段階では、より具体的な活動に重点をシフトしたことで、会員も自身のビジネスや活動内容とリンクさせた対応策をイメージしやすくなっています。

**頻繁な情報発信：**イベント情報などをKSPのメーリングリスト等で頻繁に発信しており、会員同士が繋がるきっかけを提供しています。

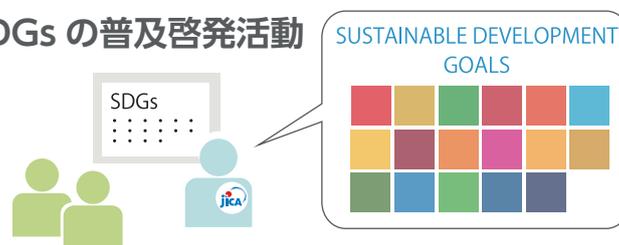
## 関西 SDGs プラットフォームの設立

### 関西SDGsプラットフォーム



### 第1フェーズ：SDGsの認知促進

### SDGsの普及啓発活動



### 第2フェーズ：SDGs達成の具体的な活動の展開

**関西SDGs** 会員数 **2455** 団体  
**プラットフォーム** 分科会数 **9** 件  
※2024年5月時点

